

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 05-168625

(43)Date of publication of application : 02.07.1993

(51)Int.Cl.

A61B 8/00

(21)Application number : 03-343789

(71)Applicant : TOSHIBA CORP

(22)Date of filing : 26.12.1991

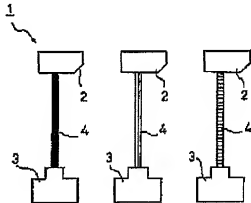
(72)Inventor : MASUBUCHI MISAO

(54) ULTRASONIC PROBE

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide the ultrasonic probe in which an entangled cable can be fixed up efficiently.

CONSTITUTION: In the ultrasonic probe 1 in which a vibrator side 3 for transmitting and receiving an ultrasonic wave to and from an examinee body and a connector side 2 connected to an ultrasonic diagnostic device are connected by a cable 4, this probe is provided with the cable 4 having a different color or pattern in accordance with a difference of a frequency or a scanning system.



(10)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-168625

(43)公開日 平成5年(1993)7月2日

(51)Int. Cl.⁵

A 61 B 8/00

識別記号

片内整理番号

7807-4C

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の枚数(全 3 頁)

(21)出願番号 特願平3-343780

(22)出願日 平成3年(1991)12月28日

(71)出願人 000003078

株式会社東芝

神奈川県川崎市幸区堀川町72番地

(72)発明者 増岡 義

橋本県大田原市下石上1385番の1 株式会社

社東芝横浜工場内

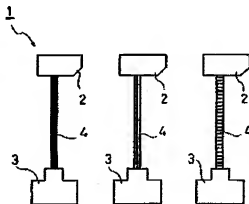
(74)代理人 弁理士 謝近 憲佑

(54)【発明の名称】 超音波プローブ

(57)【要約】

【目的】 結まったケーブルを効率良く直すことのできる超音波プローブを提供することを目的とする。

【構成】 超音波を被検体に対して送受波する振動子側3と超音波診断装置に接続するコネクタ側2とがケーブル4によって接続された超音波プローブ1において、周波数または定置方式の違いに対応して異なる色あるいは模様としたケーブル4を具備することを特徴とする。



1

(2)

特開平5-168625

2

【特許請求の範囲】

【請求項1】 超音波を被検体に対して送受信する振動子側と超音波診断装置に接続するコネクタ側とがケーブルによって接続された超音波プローブにおいて、周波数または走査方式の違いに対応付けて異なる色あるいは模様としたケーブルを具備することと特徴とする超音波プローブ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は超音波診断装置に適用される超音波プローブに関し、特に超音波プローブのケーブルに関する。

【0002】

【従来の技術】 一般に、超音波診断装置の多機能に伴い、超音波診断装置に適用される超音波プローブも多様化され、図3に示すように、複数の超音波プローブ101が超音波診断装置に取り付けられることが少くない。そこで、図4に示すように、超音波プローブ101のコネクタ側102と振動子側103とに周波数等による色分け表示104がなされたものがあり、どの超音波プローブ101が超音波診断装置に接続されているか分かるようになっている。しかし、複数の超音波プローブ101が超音波診断装置に取り付けられた状態で超音波プローブ101を使用しているとき、次第に超音波プローブ101のケーブル105同士が絡まってくる。超音波プローブ101同士が絡まったまま使用していると検査の際に邪魔になるため、時々ケーブル105の絡まりを直す必要がある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、ケーブル105の色はみな同じで、一見してケーブル105との様に絡まりあっているのかわからないため、絡まったケーブル105を直すのは困難であった。

【0004】 本発明は上記した従来の技術の課題を解決するためになされたもので、その目的とするところは、絡まったケーブルを効率良く直すことのできる超音波プローブを提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するために、本発明においては、超音波を被検体に対して送受信する振動子側と超音波診断装置に接続するコネクタ側とがケーブルによって接続された超音波プローブにおいて、周波数または走査方式の違いに対応付けて異なる色あるいは模様としたケーブルを具備することと特徴とする。

【0006】

【作用】 上記構成を有する本発明の超音波プローブにおいては、超音波プローブごとにケーブルの色あるいは模様異なるため、一見してケーブル同士の絡まり状況を把握することができる。したがって、絡まったケーブルを効率良く直すことができる。

【0007】

【実施例】 以下に本発明の実施例を図に基づいて説明する。

【0008】 図1は本発明の第一実施例の超音波プローブを示す構成図である。図1において、超音波プローブ1は、超音波診断装置（図示せず）に接続するためのコネクタ側と被検体に対して超音波を送受信する振動子側3とが、ケーブル4によって接続されている。ケーブル4は、超音波プローブ1の周波数や走査方式によってそれぞれ異なる色あるいは模様のものである。模様としては、例えば縦線、横線、斜線模様その他ケーブルの違いがわかるものであればよい。

【0009】 超音波診断装置によって診断を行う際は、複数の超音波プローブ1を超音波診断装置に取り付けて使用することが少くない。そのため、図2に示すように、超音波プローブ1のケーブル4同士が次第に絡まってくるが、超音波プローブ1ごとにケーブル4の色あるいは模様異なるため、一見してケーブル4同士の絡まり状況を把握することができる。したがって、絡まったケーブル4を効率良く直すことができる。

【0010】

【発明の効果】 本発明の超音波プローブは以上の構成及び作用を有するもので、一見してケーブル同士の絡まり状況を把握することができるので、絡まったケーブルを効率良く直すことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の第一実施例の超音波プローブを示す構成図である。

【図2】 同第一実施例において、ケーブルの絡まり状況を示す図である。

【図3】 従来の技術において、ケーブルの絡まり状況を示す図である。

【図4】 従来の技術における超音波プローブを示す構成図である。

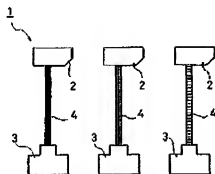
【符号の説明】

- 1 超音波プローブ
- 2 コネクタ側
- 3 振動子側
- 4 ケーブル

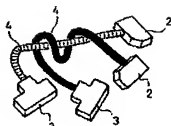
(3)

特開平5-168625

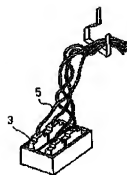
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

